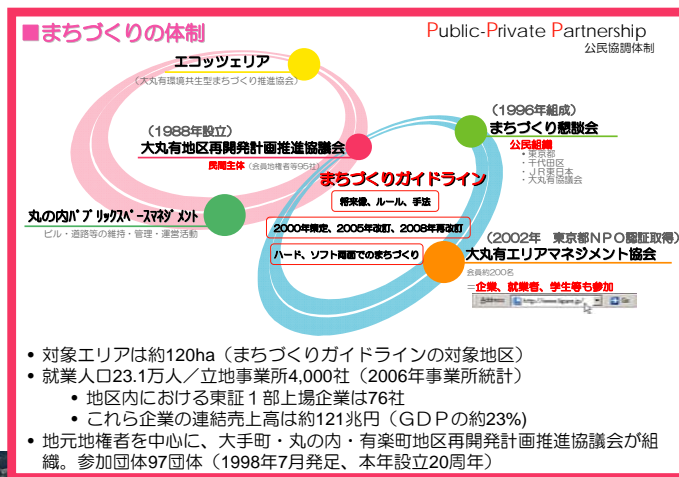


大丸有（大手町・丸の内・有楽町）地区における環境共生への取組み



大手町・丸の内・有楽町地区（東京都千代田区）では、我が国を代表するビジネスセンターとして都市機能の更新が進んでいますが、まちづくりの中では積極的な環境対策が行われていると共に、オフィスワーカーや来街者にご参加いただくソフト面での取組みも進んでいます。



■エリア版CSR報告書の作成

2008年からは、エリア版のCSR報告書を作成。
「大丸有の通信簿」として、エリア内でのエネルギー消費等を分析しているほか、エリアとしての環境共生への取組みを広く紹介しています。

■エリア版CSR報告書の作成

丸の内地球環境新聞による地区内の環境活動のリアルタイム情報のほか、国や自治体の動き、世界の情勢や先進技術の動向などを、エリア共有の情報として発信しています。

1000年続くまちへ

■太陽光発電装置の設置



丸の内パークビル 三菱UFJ信託銀行本店ビル

ビルの屋上には太陽光発電装置を設置し、再生可能エネルギーの活用に努めています。

ビル名	発電能力
丸の内ビル	10KW
三菱UFJ信託銀行本店ビル	20KW
新丸の内ビル	20KW
丸の内パークビル	60KW

■交通による環境負荷の低減



丸の内シャトル 充電ステーション（新丸ビル）



三菱地所が導入する電気自動車(デザインイメージ)

2003年8月から運行を開始したエリア内無料巡回バスの丸の内シャトルは、環境にやさしい低公害ハイブリッド電気バスを活用し、エリア内企業の協賛を得て「シャトルバス運行委員会」が運営しています。

また、エリア全体で電気自動車の活用を促進するため、ビルの駐車場に充電ステーションを整備しているほか、エリア内企業の電気自動車の導入も進んでいます。



■エリア一体で面的に開催される環境イベント



丸の内仲通りでの一斉打水、夏休み期間に行われる子供向け環境セミナー「エコキッズ探検隊」など、幅広い層に参加いただけるイベントを開催しています。

■地域の環境戦略拠点”エコツツェリア”の開発



運営は一般社団法人「大丸有環境共生型まちづくり推進協会」が担い、次世代環境技術の実証的な研究や成果展示を行っている他、戦略的なシンポジウムや環境セミナーを積極的に開催しています。

■ヒートアイランド現象の抑制



ビルの屋上や壁面を可能な限り緑化したり、ドライミスト発生装置を設置し、ヒートアイランド現象の抑制に努めています。

■新規ビルにおける環境配慮（丸の内「ビルディング」）

クールルーフ
屋上部に反射性顔料を含む遮熱塗料を塗布し、日射による室内温度上昇の低減を図ります。

超効率型照明
反射板形状、塗装色、塗装方法を見直し高効率照明器具を採用することにより高い省エネ値を達成します。
→従来器具比、約36%の電力消費削減

エアフローウィンドウシステム
エアフローウィンドウシステムを導入し、外側面のガラスをLow-eペアガラス、ブラインド制御システムの採用でシステムの効率的な機能をサポート。

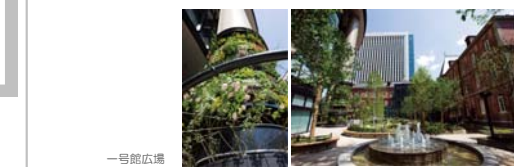
水の循環システム
雨水を貯留槽に貯え、中庭の植栽、修景の施設、保水性舗装への給水源の一部とします。

地域冷暖房による高い省エネ性能の達成
最新の省エネ技術を導入した地域冷暖房プラントを本建物地下に整備し空調用の冷水・蒸気の供給を受けます。

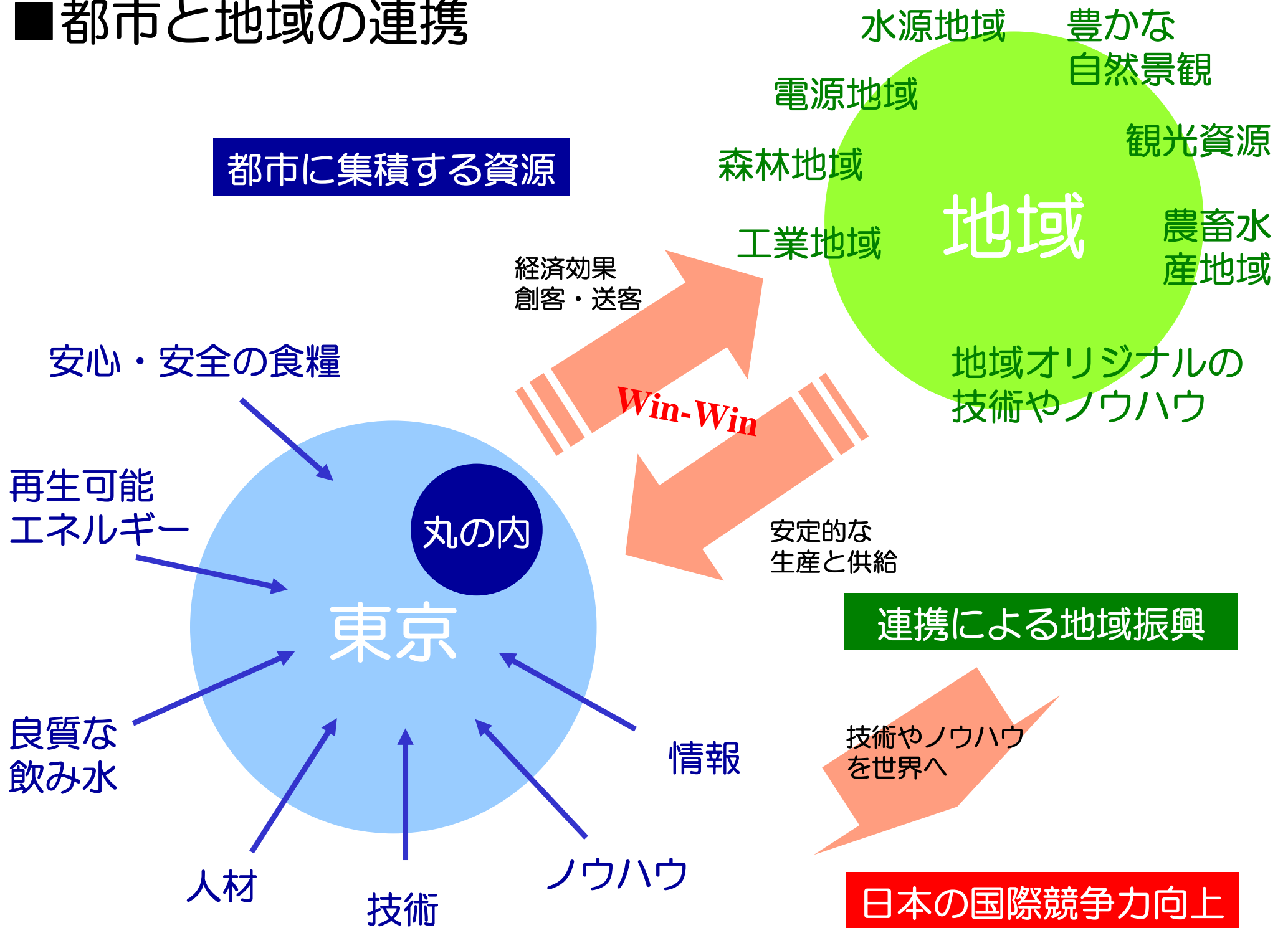
緑豊かな広場空間の形成（一号館広場）
敷地内に緑化空間を整備し、来街者に交流・憩いの空間を提供するとともに、保水性舗装・ドライミストの採用によりヒートアイランド現象を抑制します。

ヒートアイランド対策
東京都環境確保条例（建築物環境計画書制度）の評価基準を踏まえ、高水準のヒートアイランド対策を実施します。

- ・地上部・壁面等の緑化（地上部 約1,450㎡、壁面 約810㎡、屋上 約280㎡）
- ・一号館広場における保水性舗装（約940㎡）、ドライミストの採用
- ・その他（建物人工排熱対策、敷地と建物の被覆対策、風環境への配慮等）



都市と地域の連携



都市に集積する資源

安心・安全の食糧

再生可能
エネルギー

良質な
飲み水

人材

技術

ノウハウ

情報

丸の内

東京

水源地域

豊かな
自然景観

電源地域

観光資源

森林地域

農畜水
産地域

工業地域

地域

地域オリジナルの
技術やノウハウ

経済効果
創客・送客

Win-Win

安定的な
生産と供給

連携による地域振興

技術やノウハウ
を世界へ

日本の国際競争力向上